

had made use of, in particular those said to date back to the fourth century BC, had themselves been based on even older sources, which in turn had been based on sources originating in the furthest antiquity.

グラハム・ハンコック著・大地舞訳

There was, he asserted, irrefutable evidence that the

earth had been

BC by a hit

zation wh

gical adva

A nation of

ders, too: The

pyramid buil

uld lift and p

apparent ease,

ments to the cart

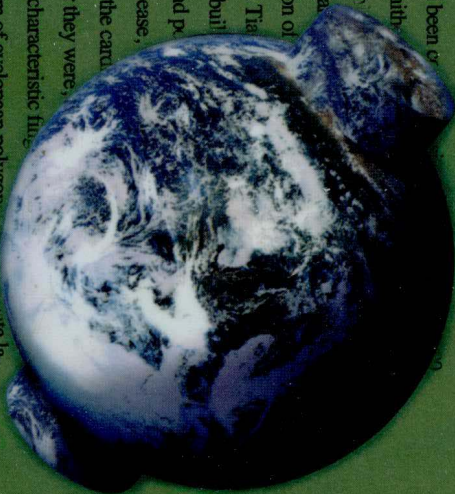
Whoever they were,

left their characteristic lin

in the form of cyclopean polygons, star-shaped, site la-

yous involving astronomical alignments, mathematical and geodetic puzzles, and myths about gods in

human form.



神々の指紋



神々の指紋
上

訳者略歴／大地 舜

青山学院大学卒。米国のオピニオン誌『新展望』東京特派員。世界最大の政治コラム「グローバル ビューポイント」(ロサンゼルス・タイムス・シンジケート) 東京特派員。訳書に『大統領の戦争』(実業之日本社)、『右脳開発法』(実業之日本社)、『インナーセックス』(実業之日本社)、『人生のささやかな真理』(実務教育出版) などがある。

神々の指紋 上

1996年2月29日 初版第1刷発行

1996年9月30日 初版第12刷発行

著 者 グラハム・ハンコック

訳 者 大地 舜

発行人 速水浩二

発行所 株式会社 翔泳社

〒150 東京都渋谷区神宮前3-14-12

出版局編集部 03-5411-3032

出版局営業部 03-5411-3020

組 版 株式会社 キャナルコンピュータプリント

印刷・製本 大日本印刷株式会社

©1996 SHOEISHA

本書の一部または全部を著作権法の定める範囲を超え、無断で複写、複製、転載、テープ化、ファイル化することを禁じます。

ISBN4-88135-348-9 C0022

神々の指紋
①

翔泳社

日本の読者の方々へ

日本の伝統文化に魅了されている英国の作家として、『神々の指紋』が日本語に翻訳されることはこのうえなく光栄であり喜ばしいことです。『神々の指紋』は日本、そして世界中のすべての国々に深い関係があります。なぜなら、本書は人類の遙か昔の「先史時代」に隠された巨大な謎を解こうとしているからです。その謎とは、一万二〇〇〇年の昔に想像を超える地殻の大変動が起こり、ほぼ完全に壊滅させられた高度に発達した世界規模の文明のことです。

人類は、記憶を喪失しているのです。現代社会がこのように騒然としており混乱している理由の一つは、人類の起源に関する重要な情報がすっかり忘れ去られていることにあると考えています。現代人はこれまでの進歩に対して誇りを持ち過ぎ、傲慢になっており、このような進歩が簡単に破壊され、消し去られてしまう可能性に、あまりにも無関心です。

しかし我々は、記憶を回復しはじめた時代に生きています。目覚めの時であり、真実が少しづつ明るみにできています。世界中であらゆる分野の人々が真実を追究していますが、『神々の指紋』

はそれらの研究の成果の最新レポートであり、集大成であります。もうすぐ衝撃的な発見があるでしょう。その大発見がある可能性の高い地域は、巨大な遺跡があるエジプトのギザのピラミッド周辺です。ここでは、長期にわたって日本の考古学者も活躍しています。

これから数年の間に、これらの発見は人類の歴史にたいする見方を根本的に変えてしまうことでしょう。

グラハム・ハンコック

謝辞

本書はパートナーのサンサ・ファイアの寛大さ、温かさ、変わらぬ愛情がなければ書き終えることはできなかった。彼女はいつも創造力と、親切と想像力で周りにいる人々を、豊かな気持ちにさせてくれる。この本のなかのすべての写真は彼女によるものだ。

また六人の息子と娘たち——ガブリエル、レイラ、ルーク、ラビ、ショーン、シャンティの支援と励ましにも感謝する。

私の両親、ドナルド・ハンコックとムリエル・ハンコックはこのプロジェクトが困難にぶつかった時には、いつも信じられないほどの支援をしてくれた。執筆中、両親は叔父のジェームズ・マコーレイともども、原稿を丹念に読んで意見を述べてくれた。古くからの親しい友人であるピーター・マーシャルにも感謝したい。彼は数々の嵐のような困難と一緒に乗り越えてくれた。ロブ・ガードナー、ジョセフ・ヤホダ、シエリー・ヤホダ、ロエル・オーストラ、ジョセフ・シヨール、ローラ・シヨール、ニール・シンクレア、コリン・スキナー、クレム・バランスも素晴らしい助言を与え

てくれた。

一九九二年のことだったが、ミシガン州ランシングに友人がいることを知った。名前はエド・ポニスト。エドは私の前の著書『The Sign and the Seal』が出版された直後に連絡を取ってくれたが、米国における調査をボランティアで行ない本書に関連する資料を集めてくれた。エドの仕事は驚異的で、タイミングよく必要な資料を届けてくれ、まったく存在を知らなかった重要な文献も送ってくれた。エドはまた優れた批評家でもある。私は付き合い始めてすぐにエドの判断を信頼し、尊敬するようになった。サンサと私がアリゾナのホピ・インディアンを訪ねたときの水先案内人はエドだった。

エドからの手紙は『The Sign and the Seal』を書いた後に受けとった世界中からの手紙の洪水の中にあつた。最初はすべての手紙に返事を書いていた。だがそのうち本書を執筆するための調査に没頭しなければなくなり、返事が書けなくなった。大変申し訳ないことをしたと思うが、手紙には大変に感謝していることをお伝えしたい。今後は送ってくださる手紙にたいして、もっと効果的に対応したいと思っている。なぜなら、送られてくる手紙には高度な情報が含まれていることが、多々あるからだ。

本書の執筆にあたっては、マーチン・スレイビン、デービッド・ミステキー、ジョン・ササン・デリックなどの研究者が援助してくれた。また大西洋の両側の編集者トム・ウェルドン（ハイネマン）、ジム・ウエイド（クラウン）、ジョン・ピアース（ダブルデイ・カナダ）に感謝したい。また私の著作権エージェントであるビル・ハミルトンとサラ・フィッシャーの変わらぬ支援と適格な助言に感

謝する。

調査中に親しくなった、同じようなテーマを研究している仲間たちにも感謝している。英国のロバート・ボーヴァル（今後、似たテーマの本を二冊、一緒に書く予定だ）、米国のコリン・ウィルソン、ジョン・アンソニー・ウエスト、リユー・ジェンキンズ、カナダのランド&ローズ・フレマス、ポール・ウイリアム・ロバーツなどだ。

最後にイグネイシャス・ドネリー、アーサー・ポスナンスキー、R・A・シュワレ・ド・リュビク、チャールズ・ハプグッド、ジョルジョ・デ・サンティラーナなどの諸先輩に敬意を表わしたい。彼らは、人類史の解釈にはひどい誤解があることに気がつき、世間の反対にも屈せず、勇気を持って自分たちの意見を述べてきた。その結果、現在では後退する心配をする必要がないほど、人類史見直しの機運が高まってきている。

目次

第1部 地図のミステリー

第1章 見えない場所の地図

3

第2章 南方大陸の河

17

第3章 失われた科学の指紋

32

第2部 海の泡 ペルーとポリビア

第4章 コンドルの飛翔

45

第5章 過去に導くインカの道

55

第6章 混乱の時代に現われた男

60

第7章 では、巨人がいたのか？

70

第8章 世界の屋根にある湖

82

第9章 昔、そして未来の王

88

第10章 太陽の門がある都

95

第11章	太古の暗示	103
第12章	ピラコチャの最後	115
第3部 翼ある蛇 中央アメリカ		
第13章	世界の終わりと血の捧げもの	125
第14章	蛇の人々	135
第15章	メキシコのバベル	145
第16章	蛇の聖地	158
第17章	オルメクの謎	165
第18章	人目をひくよそ者	176
第19章	黄泉 ^{よみ} の国への冒険、星への旅	187
第20章	最初の人々の子供たち	198
第21章	世界の終わりを計算するコンピュータ	208
第22章	神々の都市	219
第23章	太陽と月と死者の道	231

第4部 神話の謎1 記憶を喪失した人類

第24章 夢のこだま

245

第25章 終末論のさまざまな仮面

264

第26章 地球の長い冬に生まれた種族

274

第27章 地球は暗闇で覆われ、黒い雨が降りはじめた

280

第5部 神話の謎2 歳差運動の暗号

第28章 天空の機械

299

第29章 古代の暗号の最初の手掛り

313

第30章 宇宙の木と神々の白

325

第31章 オシリスの数学

340

第32章 まだ生まれていない世代への語りかけ

358

注

第1部

地図のミステリー

第1章 見えない場所の地図

第8偵察技術飛行大隊（SAC）

米国空軍

ウェストオーバー空軍基地

マサチューセッツ州

1960年7月6日

用件：海軍総督ピリ・レイスの世界地図

宛先：チャールズ・H・ハプグッド教授

キーン州立大学

キーン、ニューハンプシャー州

拝啓

1513年に描かれたピリ・レイスの世界地図の奇妙な点について鑑定してほしいという件ですが、
当方の調査結果が出ましたのでお知らせします。

地図の下側は、南極大陸のクイーンモードランド地方プリンセス
スマーサ海岸と、パーマー半島を描いているという指摘は正しい
と思います。そのように見るのが最も論理的な見方であり、おそ
らくこの地図の最も正しい解釈でしょう。

この地図の詳細は、1949年にスウェーデンと英国による南極大
陸調査団によって氷原の上から行なわれた地震波測定の結果と、
驚くほど完全に一致しています。

そうなると、この地図が描かれたのはクイーンモードランド地
方が氷床で閉ざされる前だったことになります。

この地方の氷床の厚さは現在では1.6キロもあります。

1513年当時の地理的知識から考えると、どのように情報を得て
この地図を作成したのか、まったく見当もつきません。

敬具

ハロルド・Z・オールマイヤー

米国空軍中佐

司令官

さりげない言葉で書かれているが、オールマイヤーの手紙の内容は衝撃的なものだ。¹もしクイーンモードランド地方の地図が、氷で覆われる前に描かれていたとしたら、オリジナルの地図が作成された時期は、非常に古いことになる。

正確にはいつごろ描かれたことになるのか？

これまでの通念では、南極大陸が現在のように氷原で覆われたのは、数百万年も昔のことだ。だが、詳しく調べると、この通念には多くの欠陥がある。したがって総督ピリ・レイスによって描かれたクイーンモードランド地方の地図は、数百万年も前の大陸の姿ではないようだ。数百万年も前に描かれたとすると、誰がこのような地図を描く技術を持っていたかを説明しなければならないが、それは難しい。たとえば紀元前二〇〇万年にこの地図が描かれたとすると、人類が誕生する前のことになる。信頼できる最新資料によれば、地図に描かれているクイーンモードランド地方とその近辺は、長い間、氷に覆われていなかった。氷に覆われはじめたのは六〇〇〇年前である。²このことについては次章で触れる。だがそれにしても、地図の作成は複雑な文化事業であり、「誰が六〇〇〇年以上も前に、このような仕事をしたのか？」という疑問を解決しなければならない。六〇〇〇年前といえば、現在の歴史家が認めている最初の本格的な文明が発達する前なのだ。

古代の出典

この疑問を解き明かす前に、歴史的・地理的な基本事実について確認しておこう。

①ピリ・レイスの地図は本物であり、捏造ねつぞうされたものではなく、一五一三年にコンスタンチノールで作成されている。⁽³⁾

②この地図はアフリカの西海岸、南アメリカの東海岸、南極大陸の北海岸をカバーしている。

③当時、ピリ・レイスは南極大陸の北海岸に関して、探検家から情報を得ることはできなかった。南極大陸が発見されたのは一八一八年であり、ピリ・レイスが地図を描いてから三〇〇年も後のことだからだ。⁽⁴⁾

④地図にある氷が覆われていないクイーンモードランド地方の海岸は、大いなる謎である。地質学上の証拠にしたがうと、氷のない状態でこの地方を調査できたのは、紀元前四〇〇〇年よりも前ということになるからだ。⁽⁵⁾

⑤このような調査ができた最初の時期を的確に示すことはできない。だが、クイーンモードランド地方の沿岸は、氷原に飲み込まれてしまうまで、少なくとも九〇〇〇年間は氷結していない状態にあったようだ。⁽⁶⁾

⑥この氷結していなかった紀元前一万三〇〇〇年から前四〇〇〇年の間に、沿岸を調査することができ、あるいは必要に迫られた文明の存在は、歴史上では記録されていない。⁽⁷⁾

言い換えれば、この一五一三年の地図の真の謎は、一八一八年まで発見されていない大陸が描かれていたことにもあるが、それにもまして、誰が、六〇〇〇年前の氷のない状態の大陸沿岸を描いたのか、ということにある。